

施策の柱1 持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開

本県では、令和3年3月に策定した「第4次山形県環境計画」において、「持続的発展が可能な豊かで美しい山形県」を構築していくには、持続可能な社会や環境を支える「人づくり」が全ての基盤であるとして、施策の柱1を全体に共通する施策と位置付けています。

環境問題を「自分ごと」として捉えるための意識改革・行動変容の促進を図るため、気候変動を防災や健康など自らの命や暮らしにも関わる身近な問題と関連付け、全ての世代の県民一人ひとりが、環境に配慮した行動ができるようライフステージを踏まえた環境教育・環境学習を推進していく必要があります。

特に、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組は時代の要請であり、全ての県民がその趣旨を理解し、県民総ぐるみによる運動として取り組むとともに、次代をけん引する若者の育成や若者が活躍できる環境づくりが求められています。

1 現状

(1) 本県における環境教育「人づくり」

- 「カーボンニュートラル」とは、大気中に排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの量から、森林等が吸収する二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの量を差し引いて、全体を実質ゼロにすることです。
- 令和3年度に県民のカーボンニュートラルの認知度を調査したところ、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が29.4%、「言葉は知っているが意味は知らなかった」と回答した割合が23.4%、「言葉も意味も知らなかった」と回答した割合が45.6%という結果になりました。

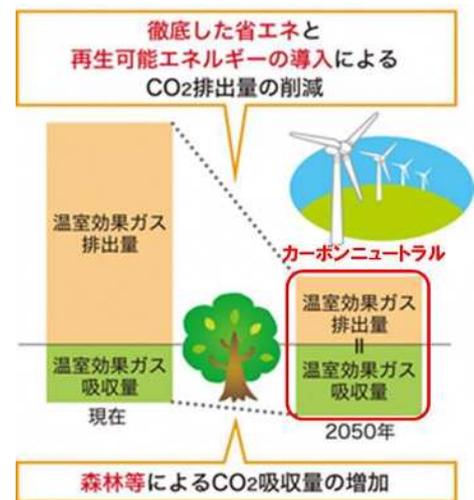
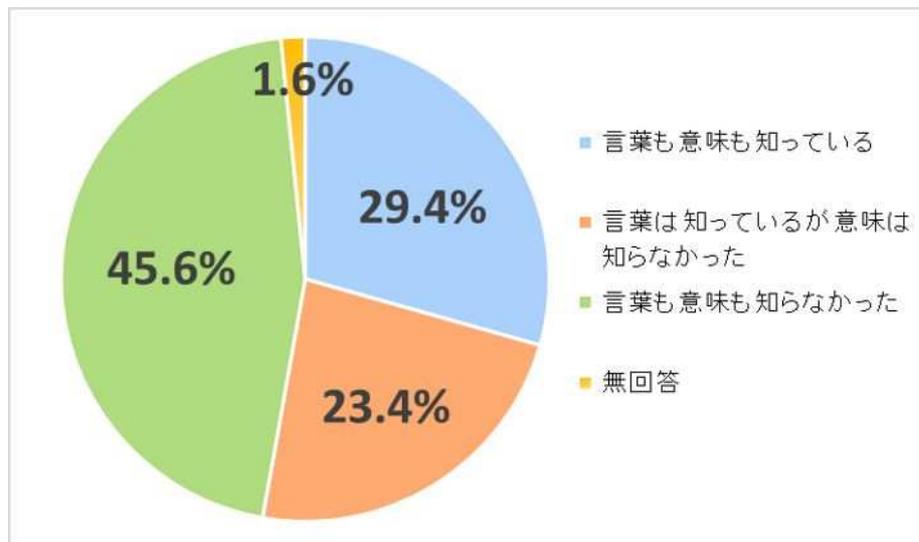
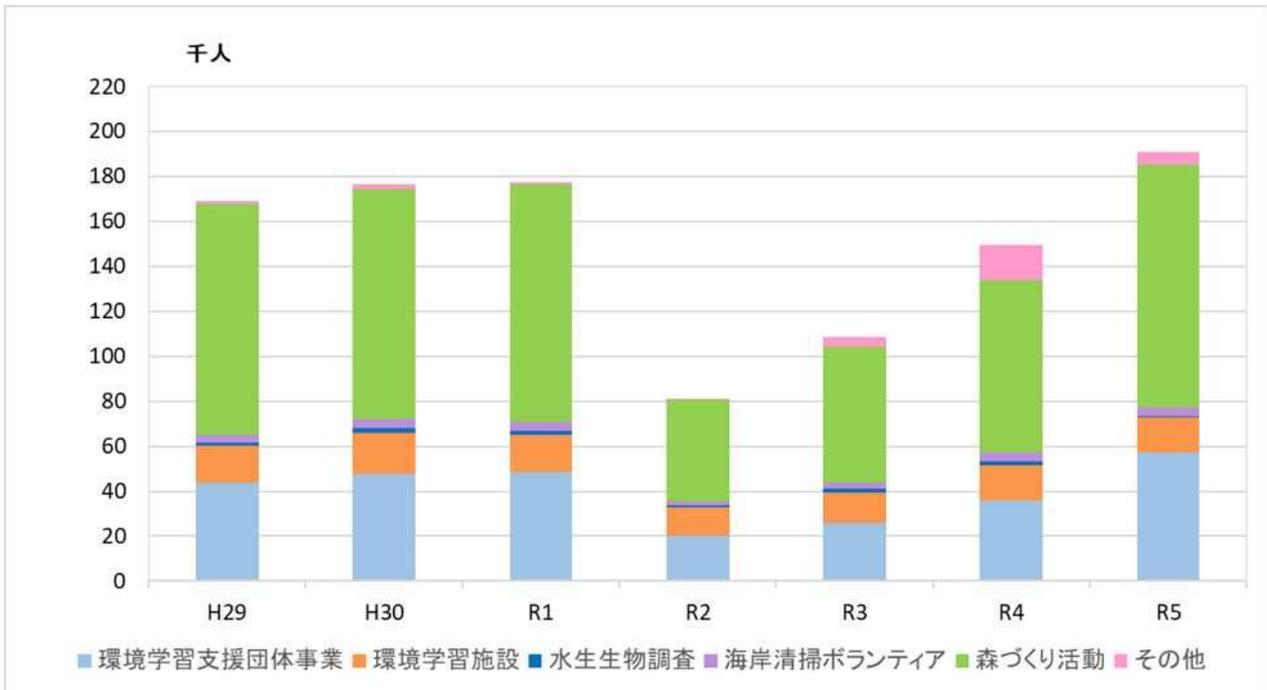


図1-1 「カーボンニュートラル」の言葉と意味の認知度（令和3年度）



- 令和5年度の環境学習・環境保全活動への参加者数は、約19万1千人で、令和4年度と比較して約4万1千人増加しました。前年度より参加者数が増加した主な要因として、環境に関する県内でのイベントや環境教室の開催が増加したこと等が挙げられます。

図1-2 本県における環境学習・環境保全活動への参加者数の推移



2 取組

(1) 環境問題を「自分ごと」と捉えるための意識改革・行動変容の促進、県民総ぐるみによる運動の展開

ア カーボンニュートラルやまがた県民運動の展開

- 県民一人ひとりが、身近なところから、できることから、カーボンニュートラルに向けたアクションにチャレンジし、「豊かで美しい山形県」を県民総ぐるみで将来に継承していくため、令和4年より「みんなの地球（あす）のためにチャレンジ！カーボンニュートラルやまがた県民運動」を展開しています。同年、県民運動の推進組織として「カーボンニュートラルやまがた県民運動推進会議」を設立し、キックオフとなる県民運動推進大会を開催しています。



カーボンニュートラルやまがた県民運動推進大会

イ 県内各施設におけるカーボンニュートラル広報啓発巡回展示の実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向けて、県民の皆様に対して「カーボンニュートラル」という言葉や趣旨について理解を促し、省エネルギーへの取組や再生可能エネルギーの導入といった具体的な取組への理解・協力を呼び掛けることを目的として、県内4市町（天童市、金山町、川西町、遊佐町）の庁舎や県立図書館といった公共施設5会場に特設の展示ブースを設置し、啓発ポスターやリーフレット、紙製クリアファイル等を配置し、普及啓発を実施しました。

ウ カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストの実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向け、県民の方々にカーボンニュートラルについて学び、考えていただくとともに、作品を通してカーボンニュートラルを広く周知するため、カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストを実施しました。
- 令和5年度は、「カーボンニュートラル実現への思い」をテーマに「標語」と「ポスター」を募集し、小学生の部、中学生の部、一般の部合わせて545点の作品の御応募を頂きました。

エ 公用車への次世代自動車導入によるカーボンニュートラル普及啓発

- 県が自ら排出する温室効果ガスを削減するため、令和5年度は、公用車としてプラグインハイブリッド車5台を県庁及び各総合支庁に導入するとともに、カーボンニュートラルをイメージしたデザインを車両にラッピングすることにより、県民へのカーボンニュートラル普及啓発に活用しました。



ラッピングを施したプラグインハイブリッド車

オ 省エネ家電買換えキャンペーン

- 本県で排出されるCO₂のうち家庭部門からの排出量は2割を超えており、またその排出源として電気が約6割を占めております。家庭部門からのCO₂排出量削減のためには、省エネ機器などへの更新による消費電力の削減が必要となるため、県民に「省エネ・節電」につながる省エネ家電への買換えを促す「省エネ家電買換えキャンペーン」を実施し、令和5年度は、合計351名に県産品カタログギフトを贈呈しました。

(2) 担い手の発掘・育成と活躍できる環境づくり

ア やまがたカーボンニュートラル大使の委嘱

- 環境に関心を持つ小・中・高校生が、2050年に社会の中心となることを見据え、カーボンニュートラルについて考え、話し合い、交流するとともに、取組事例や取組の大切さなどを情報発信することにより、カーボンニュートラルの実現に向けた機運の醸成と県民一人ひとりの取組に波及させることを目的としています。
- 令和5年度は、環境に関心を持ち、取組を実践している小・中・高校生の10グループに「やまがたカーボンニュートラル大使」を委嘱しました。

【やまがたカーボンニュートラル大使一覧】

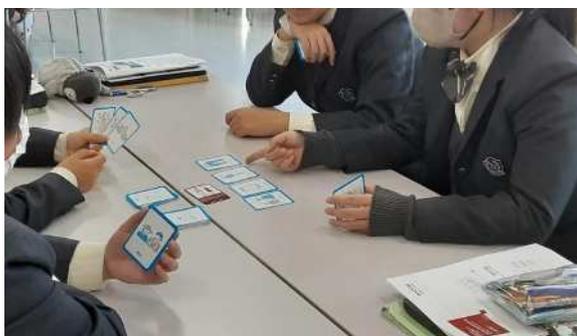
学校名・グループ名	環境学習の概要
東根市立東郷小学校児童会（東根市）	学校の環境方針に基づく省エネ等の環境活動
鮭川村立鮭川中学校第2学年（鮭川村）	環境問題をテーマとした探究活動
県立山形東高等学校探究部 雪と温泉で発電チーム（山形市）	温度差発電の研究
県立山形東高等学校探究部 微生物発電チーム（山形市）	微生物発電の研究
県立山形東高等学校探究部 ワックスチーム（山形市）	電気の使用量削減を目指した研究
県立山形東高等学校探究部 Eco City Yamagata チーム（山形市）	微生物発電と土壌の条件についての研究
県立山形工業高等学校 山工元気プロジェクトチーム（山形市）	超小型風車におけるブレード形状最適化の研究

学校法人九里学園高等学校 プログレスコース（米沢市）	気候変動等の探究学習、政策提言
県立酒田光陵高等学校 光陵省エネ電工チーム（酒田市）	太陽光パネルの設置、LEDの設置
県立村山産業高等学校 電子情報技術部（村山市）	太陽光パネルの研究

イ 高校・大学等を対象とした若者向け環境SDGsワークショップの開催

○ 令和2年度より、カーボンニュートラルの実現に貢献できる人材の育成を図るため、山形県民CO₂削減価値創出事業「やまがた太陽と森林（もり）の会」の取組により得られた収益を活用し、若者を対象とした環境SDGsワークショップの開催を支援しています。

令和5年度は、SDGsや地球温暖化、気候変動適応をテーマとして、県内の高等学校14校において合計20回のワークショップを開催しました。



【若者向け環境SDGsワークショップの開催先一覧】

学校名	
県立新庄北高校	県立山形東高等学校
県立米沢興譲館高等学校	県立村山産業高等学校
県立東桜学館高等学校	県立荒砥高等学校
県立鶴岡北高等学校	県立小国高等学校
県立山形工業高等学校	県立米沢工業高等学校
県立長井高等学校	県立高畠高等学校
県立寒河江高等学校	東海大山形高等学校

ウ 山形県学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」による普及啓発活動の実施

○ 令和4年度より、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向け、県民の環境意識の醸成及び普及啓発の担い手の育成を目的に、県内の大学生等を対象に学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」を募集し、研修を通して人材育成を図るとともに、普及啓発活動を実施しています。

令和5年度は、計42名の学生をボランティアとして登録し、小学校への出前授業や「やまがた環境展」をはじめとする県内各地での環境イベント等において、計9回普及啓発活動を実施しました。



キックオフミーティング（研修会）の開催



やまがた環境展での普及啓発活動

エ 環境学習支援団体の認定

- 環境の保全に関する情報の提供や体験機会の提供などを通して、県民の皆さんの環境学習を支援している民間団体を認定し、広く紹介することにより環境学習の機会の拡大を図り、環境保全の意欲増進を図ることを目的として、平成16年度から認定を行っています。
- 令和5年度末現在54団体を認定し、県ホームページ等において各認定団体の活動について紹介しています。

令和5年度新規認定団体	実施概要
山形中央観光株式会社（東根市）	SDGsを体感するためのバスツアーを実施し、自然への関心、保護意欲の向上を図るとともに山形の魅力を再発見する
株式会社渡会電気土木（鶴岡市）	資源の活用や再資源化の事業（木質ペレット製造施設、燃料チップ生産施設、木くず再資源化設備、コンクリート破碎処理施設）の内容を学ぶ

オ 「やまがた木育」の取組

- 平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくこと」を「やまがた木育」と決めました。

- 令和5年度は、「木育教材」、小学校高学年向け副教材「やまがたの森林」とポケット版教材「森のたんけん手帳」を作成・配布しました。また、「やまがた木育」の指導者を養成するため、やまがた木育人材養成講座（スタートアップ、スキルアップ、ハイパースキルアップ）を開催しました。

このほか、図書館や子育て支援施設等を会場として、普段森林に出かける機会の少ない親子を対象とした本物に触れて学んで創れる「やまがた木育プログラム体験会」を木育教材を活用して開催しました。

【令和5年度実績】

スタートアップ2回（32名）、スキルアップ1回（10名）、ハイパースキルアップ1回（8名）、やまがた木育プログラム体験会16回（338名）



やまがた木育人材養成講座【スキルアップ】



本物のブナの葉に触れる様子

カ 環境保全団体の顕彰

- 県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に功績のあった方を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。令和5年度は、次の3団体が受賞しました。

受賞区分及び受賞団体	功績概要
【大賞】特定非営利活動法人 最上川リバーツーリズムネットワーク	水資源の魅力を発信するフォトコンテスト等、最上川水系の豊かな自然資源の価値を高め、水源地域保全につながる取組
【大賞】酒田市立西荒瀬小学校	鮭の採卵から飼育、放流までの一連した活動の実施等、河川環境保全の重要性や命の尊さを学ぶ42年以上の取組
【奨励賞】東根市・東根市教育委員会	ISO14001に基づいた市民参加型の活動や、市内の全小中学校で実践する「さくらんぼ環境ISO」の活動等、市民へ具体的な行動変容を促す取組

(3) 学習機会の充実

ア 環境科学研究センターの環境教育拠点機能の充実

- 本県における環境教育の拠点施設である環境科学研究センターでは、県民による自主的で活発な環境保全活動が展開されるよう、環境教室の開催や教材の貸出を行っているほか、環境アドバイザー等の派遣、水生生物調査への参加呼びかけなどを通じ、環境意識の醸成を図っています。また、県内で行われる環境関連イベントなど環境に関する情報について、ホームページやSNSで発信しています。

(ア) 環境相談の受付・教材の貸出等

- 環境教育に関する相談窓口の設置、環境情報・自然環境棟における環境関連の図書やDVD等の展示・貸出、体験学習の支援など

(イ) 環境教室の開催

- 学校、団体、放課後子ども教室・放課後児童クラブなどを対象とした所内教室・出前講座の実施

【令和5年度実績】 137回 (4,397名参加)

《講座例》リサイクル工作、水生生物調査、環境問題の講話



環境教室の様子

(ウ) 環境アドバイザー等の派遣

- 環境やエネルギーに関する専門的な知見を有する環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣

【令和5年度実績】 41回 (1,610名参加)

《講座例》地球温暖化、脱炭素社会の実現、食品ロス、リサイクル工作

(エ) 親子で楽しむ環境科学体験デー

- 環境月間（6月）推進事業の一環として、環境への関心を深めるとともに、環境科学研究センターの業務や施設を県民に知っていただくことを目的に平成15年度から開催

【令和5年度実績】 6月3日、24日開催（入場者延べ154名）

《実施内容》楯山の自然観察、「色の不思議」や「バスボムをつくろう！」等の科学実験

イ 情報発信の強化

- より多くの県民の方々に環境のことを「自分ごと」として捉えてもらう普及啓発のため、スマートフォン対応のサイト「環境情報やまがた」を運営するとともに、SNS「つながる環境やまがた」にて環境に関する情報を発信しています。

「環境情報やまがた」では、山形県にゆかりのあるYouTuberとコラボした環境啓発動画の配信や環境保全に関する若者と連携した取組、山形県の環境に関するデータなどを提供しています。

(4) パートナーシップの充実・強化

- 環境学習支援団体のほか、環境学習・環境教育に関わる方々を対象に、環境教育を实践するうえでのスキルアップを目指していただくとともに、意見交換を通じた団体との連携強化及びパートナーシップの構築を図り、交流する場として、「環境地域づくり担い手連携推進セミナー」を開催しました。

【令和5年度実績】

・計18名参加

① 令和5年度 新規山形県環境学習支援団体の紹介

② 講演「SDG s 時代における環境教育の实践と若者との連携
～ 青森大学SDG s 研究センターの試みに学ぶ ～」

講師：青森大学 社会学部教授・SDG s 研究センター長 藤 公晴 氏

③ 意見交換